

所属・資格 教育学科・教授

申請者氏名 北野 秋男

研究課題		学力テスト体制の構造研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	日本の学力テスト体制は、2007年の「全国学力・学習状況調査」によって本格化した。実は、それ以前の段階から全国の都道府県・市区町村では学力テストが実施されていた。日本の学力テスト体制の研究は、戦後から今日までの国・都道府県・市区町村で実施されている学力調査体制の実態と構造を時期区分しつつ、解明することを目的とする。 本研究の課題は、こうした日本の学力調査体制の考察を中心としながら、先発国のアメリカの事例も参照しつつ、後発国の日本が何を課題とし、改善すべき学力調査体制の構築のあり方を検証するものである。
	研究の結果	本研究の具体的な課題は、地方学力調査体制が全国一律ではなく各都道府県別の歴史的展開を基盤にして実施されているという実態を基に、各都道府県教育委員会（or 県立教育研究所）による公立小・中学校を対象とした独自の学力調査体制の歴史的展開を検証しようとするものである。また、今まで着目されてこなかった未発掘の一次史料も収集し、実証的な研究を行うものである。 これまでの先行研究では、国・文部省（文科省）が行った「ナショナル・テスト」の歴史的実態や課題を分散的に解明した研究は多数見られるものの、戦後から今日までの「ナショナル・テスト」の歴史的変遷を扱った研究は少なかった。ましてや、各都道府県の学力テストに関する先行研究は現状では皆無という状況であった。本研究は、そうした日本の学力政策の歴史的な研究の先駆的試みをなすものであり、いわば未開拓の研究分野に挑戦するものである。
	研究の考察・反省	本研究は、各都道府県の学力テスト政策が一朝一夕に構築されたものではなく、戦前から今日まで継続・発展してきた歴史的構造を持っていることを一次史料によって実証的に解明したものである。戦後の地方学力テストは、学力向上の一助を担ってきてはいるものの、国・文部省などによる学テの影響、ないしは学力問題の変遷や高校・大学の進学率など教育的・社会的構造の推移などとパラレルな関係にあったとも言える。 本研究の残された課題を挙げれば、史料的な制約もあり各県の学力テストの実態解明に不明な部分が未だ残存している点である。しかしながら、本研究は先行研究の存在しない未開拓な分野でもあり、新たな事実関係の発掘を行う努力を継続する予定である。また、学力向上に貢献する現場教員の活動をテスト政策と関連づけて検討することも今後の課題としたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 日本教育学会第77回大会（ラウンド・テーブル）「地方学力調査体制の実態と構造－戦後から今日までの都道府県学力調査の変遷－」宮城教育大学、2018.8.30. 日本教育学会第77回大会（自由研究発表）「学テ」にプラスの側面はないのか？－県別対応状況の類型分析－」宮城教育大学、2018.8.31.	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	「ハイスティクス・テスト」に接近する日本の学力テスト政策－学力テスト政策の現状と課題－」日本大学教育学会『教育学雑誌』第54号、2019.3.31. 【査読・有】印刷中 「地方学力テストの比較研究～福井・秋田・石川・北海道・栃木・沖縄～」科学研究費基盤研究費（B）成果報告書『テスト・ガバナンスの基盤形成における構造的比較研究～研究成果報告書（2016年－2018年）～』（研究代表者：北野秋男）2019.3.31. 150－163頁【査読・有】	